

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）中間評価結果

大 学 名	岡山大学
タ イ プ	A-I
構 想 名	東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
B	
(コメント)	<p>東アジアの共通善を一方向的に教え込むのではなく、アジア諸国の学生と教員が共にディスカッションをして追求していくという方向性は理解できる。しかしながら、人文社会系のみならず医歯薬学系も含む多様な分野の学生が、「共通善」という大括りな共通価値観に個別に迫るとしても、相応の具体的な方法とプロセスの見通しが必要である。事業実施期間内に何をどこまで実施し、それをどのように評価するのかは本プログラム実現の最も重要な部分であり、早急に明確化していくことが求められる。</p> <p>現状を見ると、「共通善」に焦点を当てたプログラムというよりも、分野別の国際化プログラムの集合で、広く浅い取組となっている。各専門と「共通善」を組み合わせでどのようなプログラムを構築するのか、それらが相互作用し、相乗効果でどのような成果が生み出せるのかを明確に示す必要がある。</p> <p>また、具体的に進められている日中韓の3大学による共通教科書の発行は評価できるが、実現に向けたハードルは高い。吉林大学と成均館大学校との連携は構築されていると思われるので、3大学協力のもと意欲的に取り組み、事業目的を達成するよう努力していくことが望まれる。</p> <p>質の保証を伴った単位互換制度の構築が遅れているため、まずは岡山大学内での学部間の統一を図り、3大学全体の制度を完成させていくことが望まれる。これらの制度整備の上で、今後計画されている国際共同大学院設立に向けた具体的なロードマップを提示することが求められる。現状では、半年間または1年間の留学者の多くは学部生であり、大学院にも重点を置いた本プログラムの構想と隔たりがあるように思われるため、改善が望まれる。</p>